

連結勘定科目の削除可否の確認方法

「連結勘定科目体系」画面での[削除]ボタンは常に有効となっていますが、勘定科目体系の見直し等により勘定科目を削除するにあたって、前期あるいは当期のデータに以下の情報がある連結勘定科目を削除すると連結精算表等が正しく作成されない場合があるため、慎重な対応が必要になります。

なお、連結勘定科目の削除に当たっては、当該データを退避後に実施してください。また、勘定科目体系の見直しを行う場合は、弊社コンサルティング担当にご連絡ください。

1. [12. 連結修正仕訳・注記情報の定義]等のマスタ

別の勘定科目に変更してください。

2. 貸借対照表の純資産の部の勘定科目及び株主資本等変動計算書の期首残高の勘定科目

変更できません。弊社コンサルティング担当にご連絡ください。

3. レポート・パッケージ、評価差額の修正仕訳及び連結修正仕訳

(1) 「3135/5134 購入固定資産等明細」の資産科目及び資産計上科目

変更できません。弊社コンサルティング担当にご連絡ください。

(2) 「3124/5124 時価評価した資産負債明細」の勘定科目

変更できません。弊社コンサルティング担当にご連絡ください。

(3) 評価差額の修正仕訳

開始仕訳が前期の仕訳から生成されますので、変更できません。

(4) 「B21 貸倒引当金の調整」「C21 棚卸資産の未実現損益消去」「C22 棚卸資産の未実現損益消去（持分法適用会社）」

開始仕訳の生成に利用しますので、前期に仕訳を生成している場合は、翌期に削除してください。

4. 個別修正仕訳・補正仕訳・連結修正仕訳で入力された勘定科目（開始仕訳の生成も含む）

株主資本等変動計算書の期首残高の勘定科目は、2. で記載のとおり、弊社コンサルティング担当にご連絡ください。

当期に入力した仕訳は、勘定科目を変更してください。前期以前に入力した仕訳については、科目属性ごとに対応が異なります

(1) 損益計算書の勘定科目・株主資本等変動計算書の変動の勘定科目

開始仕訳の生成に利用しますので、前期に仕訳を入力している場合は、翌期に削除してください。前々期以前に入力した仕訳の勘定科目は削除できます。

(2) 貸借対照表の資産及び負債の勘定科目

①個別修正仕訳及び補正仕訳

		開始仕訳の生成方法	
		積上法	洗替法
会社別 通貨	親会社通貨と同じ	変更できません。	前期に入力した勘定科目は、翌期に削除できます。
	親会社通貨と異なる	変更できません。	変更できません。

②連結修正仕訳

開始仕訳の生成方法が「積上法」の仕訳に入力している場合は、削除できません。

開始仕訳の生成方法が「洗替法」の仕訳に入力している場合で、前期に仕訳を入力している場合は、翌期に削除してください。

以上